

本庁舎周辺 ストリートデザインガイドライン(案)

本ガイドライン(案)は、本庁舎周辺エリアを対象とし、ウォーカブルなまちなかづくりを推進するための指針(案)を示すものです。今後の社会実験や関係事業者との調整の結果等に合わせて、適宜、見直しを行っていきます。

目標像

西宮の都市核にふさわしい

「多世代が集う魅力あふれるウォーカブルなまちなか」

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を創出するウォーカブルなまちづくりに向けて、本庁舎周辺エリアの緑・歴史資源を活かし、日常的に多様な活動が広がるまちづくりにより、西宮市の都市核にふさわしいウォーカブルなまちなかづくりの推進を目指します。

西宮らしい空間

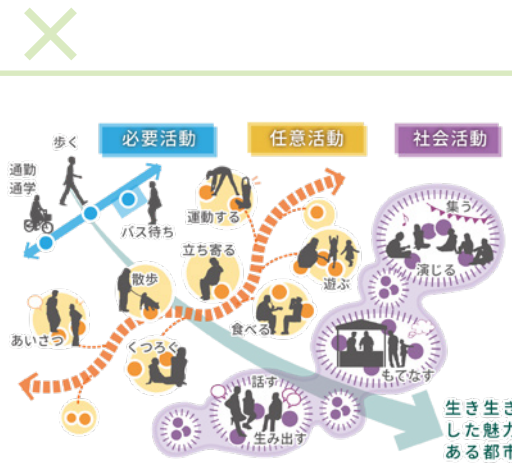
本庁舎周辺エリアを特徴づけている保護樹木や西宮らしい植栽、石や瓦のテクスチャなど、豊かな緑・歴史資源を活かした空間の創出を目指します。



多様な活動が生まれる空間

滞留空間の創出や沿道建物と一体となった賑わい創出など、日常的に多様な活動が繰り広げられるような魅力ある空間の創出を目指します。

都市におけるアクティビティには、①日常生活に組み込まれた移動などの「必要活動」、②散歩や休息など余暇的な性格をもつ「任意活動」、③交流やコミュニケーションを含む「社会活動」があるとされています。より高質な都市空間でこそ生まれる多様な「任意活動」「社会活動」が発生することを目指します。



市役所本庁舎や阪神西宮駅等が立地する西宮市の中心部(シビックゾーン)に位置する、A~Dの4街路(区間)を対象とし、西宮の都市核にふさわしいウォーカブルなまちなかづくりのため、各区間の特徴を活かした魅力ある街路空間の創出を目指します。



今後予定されている公共施設の更新と連携しながら、道路や公園・広場等のパブリックな空間を人が中心の空間に転換し、「居心地が良い」まちなかの形成を目指します。

ポテンシャルと課題

街路空間のポテンシャル・課題を踏まえて、以下の方針を設定し、ウォーカブルなまちなかづくりの推進を図ります。

	指標1 歩きやすい・安全に歩ける	指標2 居心地が良い・滞在したい	指標3 にぎわいがある・歩いていて楽しい
ポテンシャル	交通の利便性が高い環境	豊かな緑環境	公園で行われている多様な滞留行動
課題	交通量が多く安全な歩行者空間になっていない	沿道施設や滞留空間の魅力が乏しい	街路での滞留行動の多様性が乏しい
方針	利便性の高い立地環境を活かし、安全で快適な歩行環境の整備と魅力的な街路空間による回遊性の向上を図ります。	既存の緑環境等の資源を活かした滞留空間の創出と、立ち寄りたくなる魅力のある沿道施設の誘致により滞留行動の多様化を図ります。	公園で行われている日常的な滞留行動やイベント等の活動が街路全体に広がるよう、空間と仕組みを育てることで賑わいの創出を図ります。
「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出			

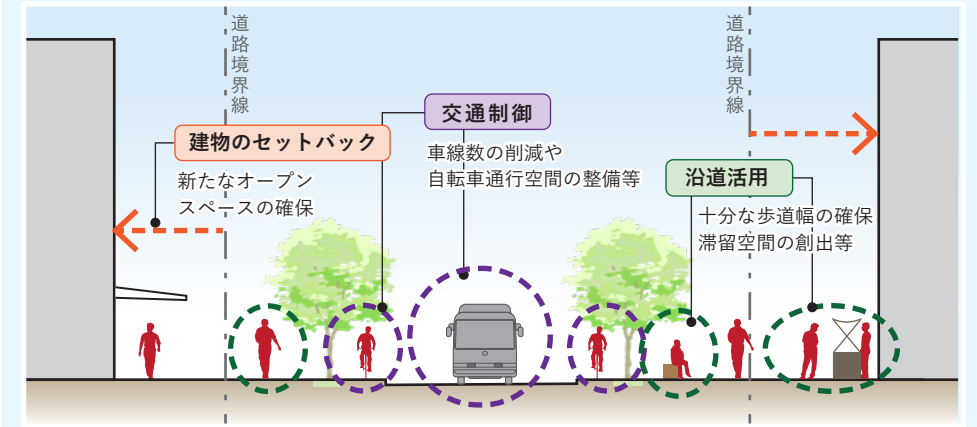
3つの視点

それぞれに特徴を持った4つの街路(区間)に対して以下の3つの視点からウォーカブルなまちなかづくりを推進するための考え方を示します。

1 街路及び沿道空間の構成

□横断構成再編の方針

通行と滞在の最適なバランスを検討し、交通制御、建物のセットバック、沿道活用等を組み合わせながら段階的に横断構成を再編します。

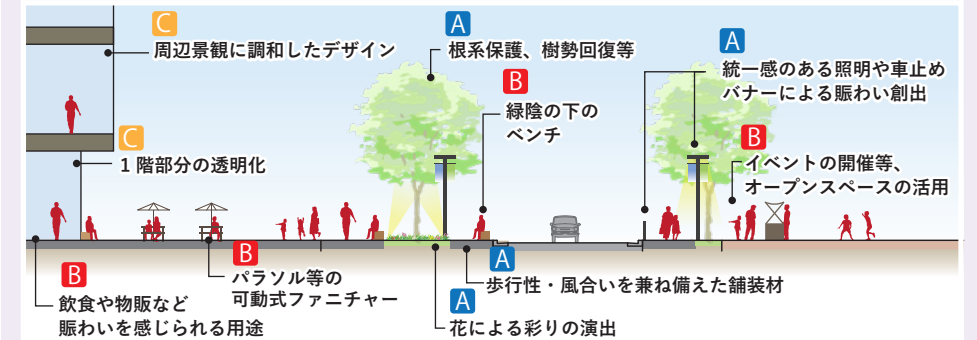


2 居心地が良く歩きたくなる空間の創出

□空間創出のための方針

沿道の公園・広場や民間の公開空地、沿道建築物の用途やファサードなども一体的に捉えたデザインの検討を行います。

- A 洗練された街路景観の形成
- B 多様な滞留行動が生まれる空間の創出
- C 街路空間と建築物のデザインの調和



3 計画のプロセスと仕組みづくり

□計画のプロセス

本庁舎周辺再整備ビジョン(素案)で示されている2050年を目標に、街路ごとにプロセスの検討を行います。

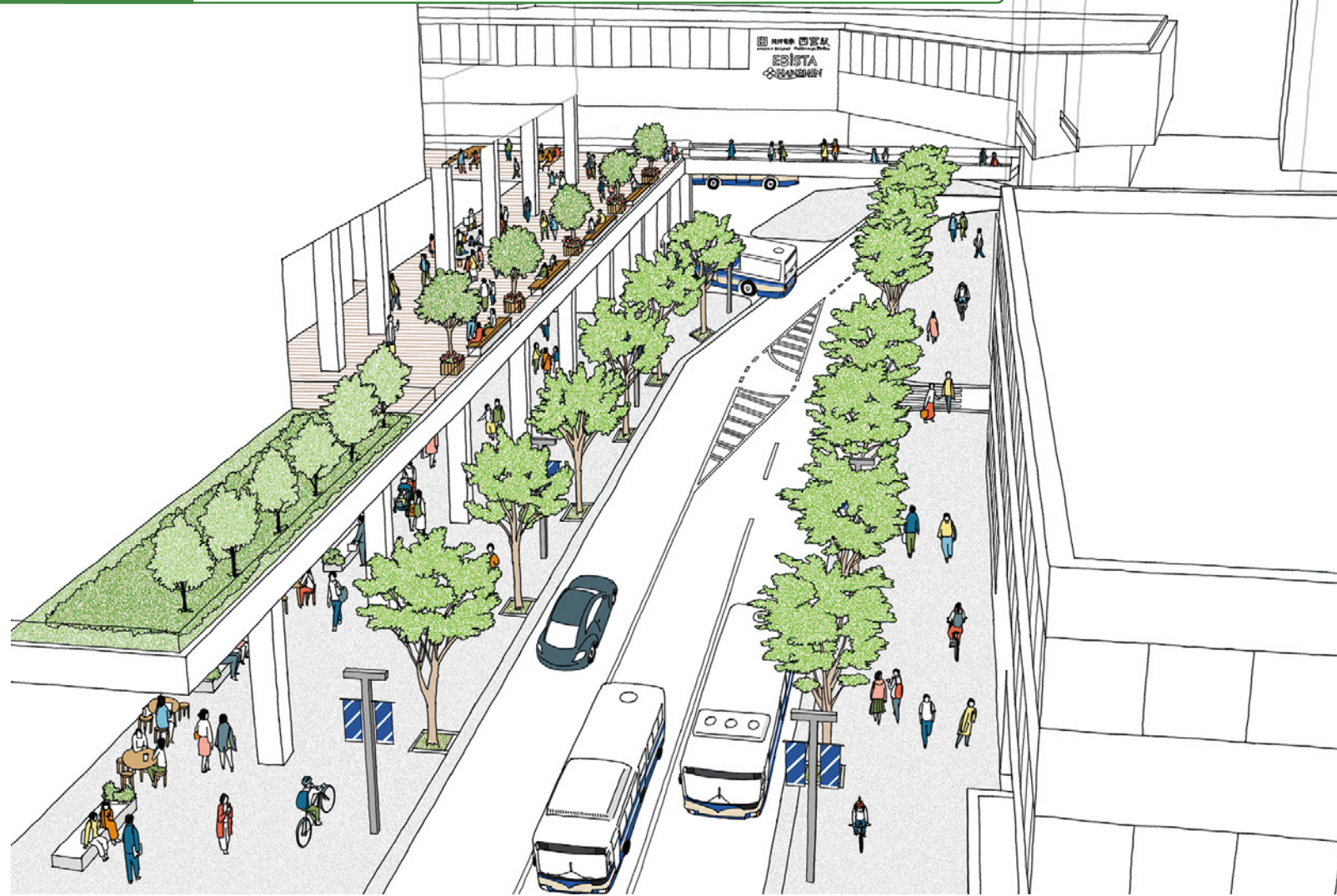
年次	2024~2028年 (第5次総合計画後期)	2029~2033年 (第6次総合計画前期)	2034年以降 (第6次総合計画後期以降)
区間A	新中央図書館の整備 駅前ロータリーの整備		
区間B		街路空間のリニューアル まちなか広場の整備	
区間C		新保健所施設の整備 県立西宮病院跡地活用	
区間D	本庁舎前空間のリニューアルほか		新本庁舎 新アミティホールの整備 現本庁舎跡地活用 トランジットモール化等の検討

□ウォーカブルなまちなかづくりに向けた段階的な取り組み

社会実験	歩行者利便増進道路制度	ウォーカブル推進税制	運用に向けた体制づくり
------	-------------	------------	-------------

人々を出迎える華やぎのある エントランスロード

※イメージバスの一例です

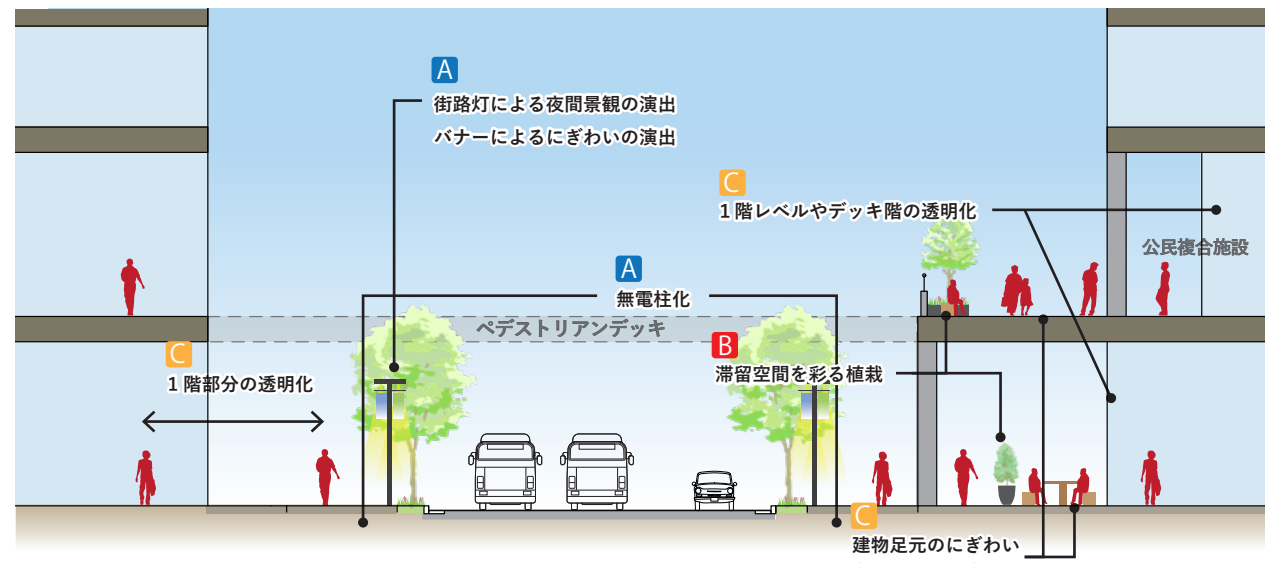


2 居心地が良く歩きたくなる空間の創出 | 立体的な回遊動線を活かし、多様なにぎわいが感じられる滞留空間の創出を目指します。

空間創出のポイント

- ・街路樹や地被、滞留空間を彩るプランターなど、うるおいのある緑の創出を図ります。
- ・パナーや夜間照明の演出など、エントランスロードにふさわしい、洗練された景観づくりを目指します。
- ・公民複合施設等との一体的なにぎわい創出に向けて、一階やデッキ階の透明化のほか、建物足元の滞留空間づくりなどを促進します。

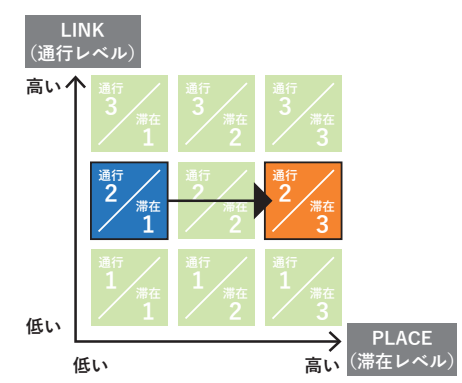
居心地が良く歩きたくなる空間創出のイメージ



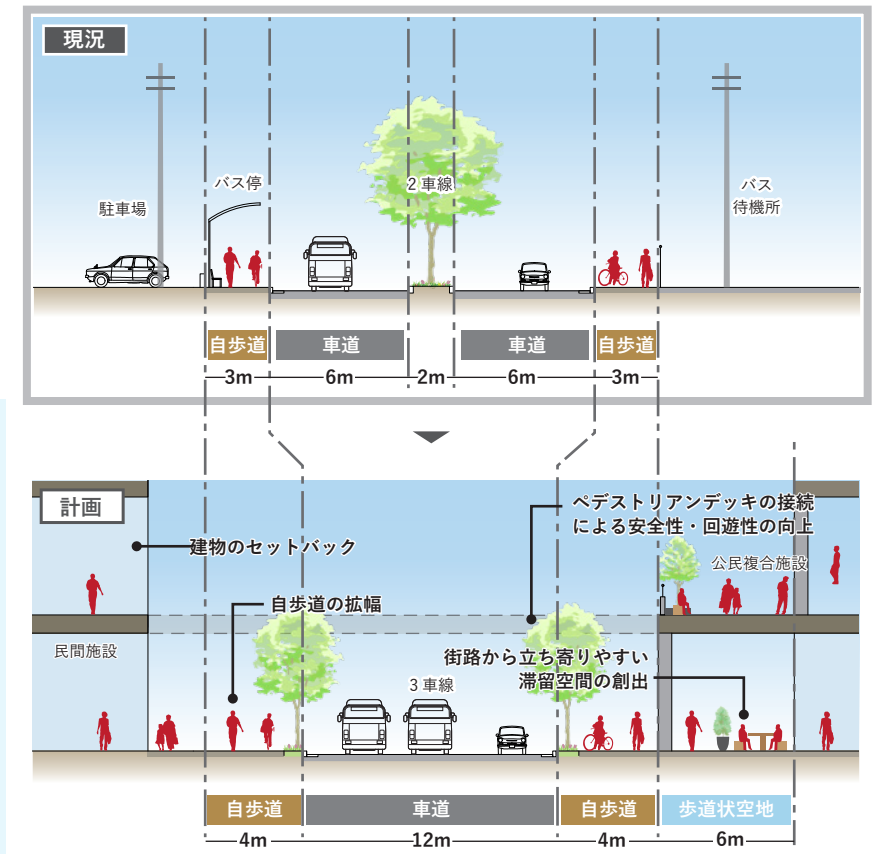
A 洗練された街路景観の形成 B 多様な滞留行動が生まれる空間の創出 C 街路空間と建築物のデザインの調和

1 街路及び沿道空間の構成 | 公民複合施設等の整備に合わせて街路空間を再編し、安全性・回遊性の高い街路空間の創出を目指します。

街路空間の再編の目標像



横断構成再編のイメージ



■街路の目標 (通行)

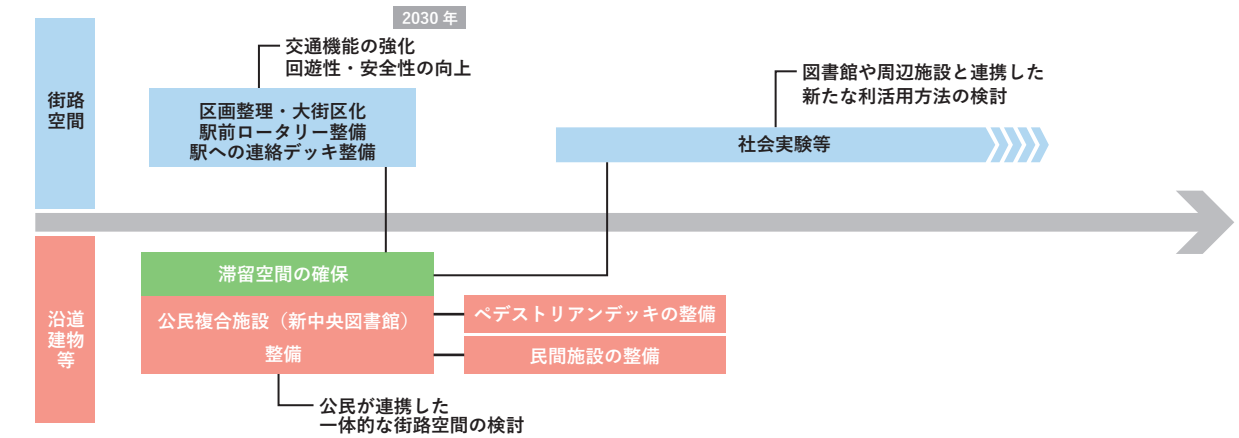
- ・交通結節点としての機能強化のため、車道部は現在の 2 車線から 3 車線へ構成を見直します。
- ・ペDESTリアンデッキによる立体的な歩車分離やバス停等の交通機能をロータリーに集約することで、歩行者の安全性・利便性向上を図ります。

■街路の目標 (滞在)

- ・自歩道の拡幅や歩道状空地の確保により、公民複合施設と一体となった立ち寄りやすい街路空間の整備を目指します。
- ・東西の建物をペDESTリアンデッキでつなぐことで、回遊性の向上を図ります。

3 計画のプロセスと仕組みづくり | 沿道建物の事業者と連携しながら、建物・街路空間整備の一体的な検討を行います。

段階的な進め方のイメージ



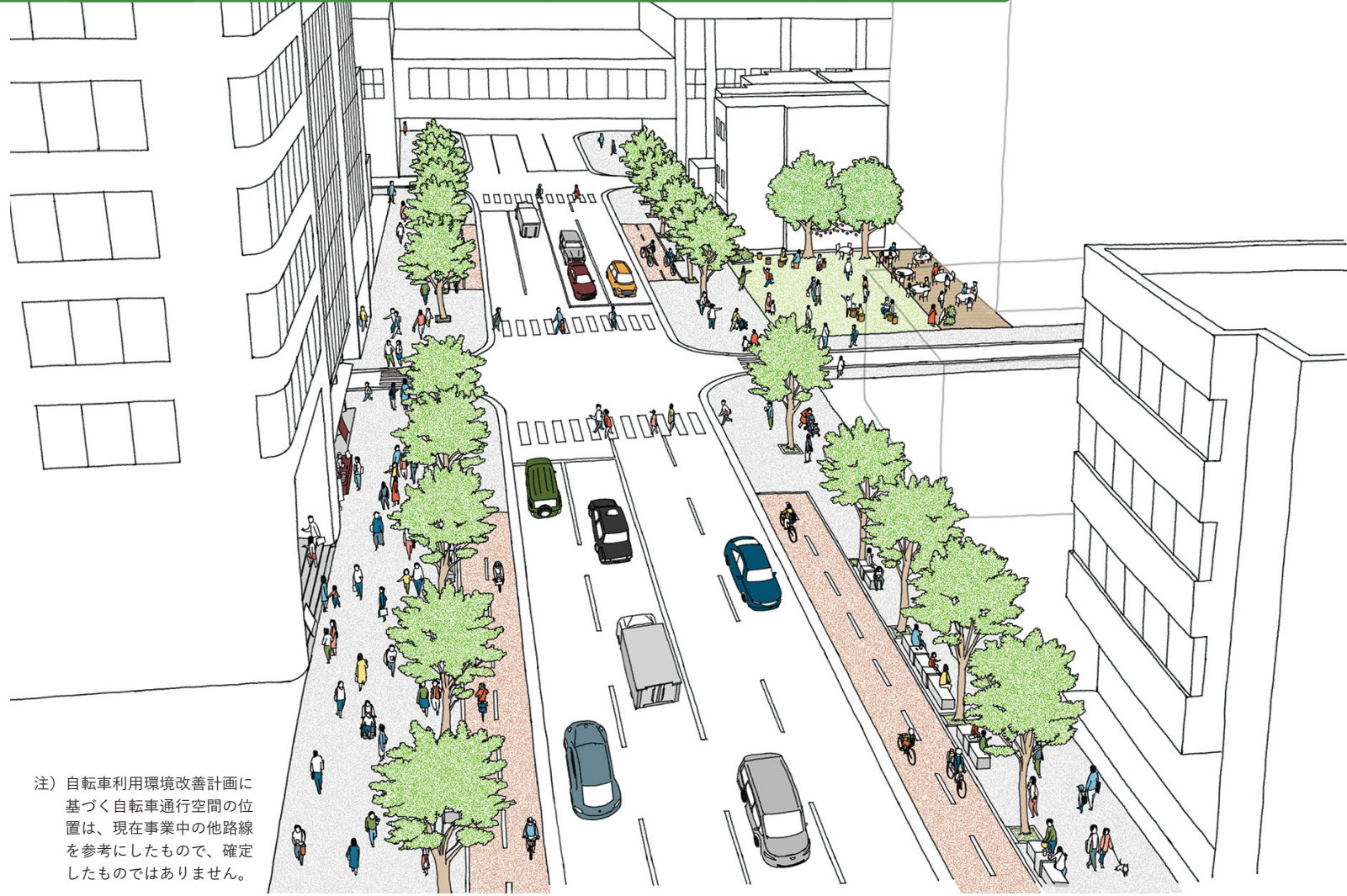
推進のための検討

- 社会実験**
 - ・街路空間やデッキテラスを利用し、読み聞かせ等のイベントやパナー製作のワークショップ等、新中央図書館等と連携した街路区間の活用方法を検討します。
- 民間建物のオープン化の推進**
 - ・民間建物用地については、道路と一体となったオープンスペースの確保や建物低層部のオープン化に対し、固定資産税・都市計画税の軽減措置を検討します。
- 公民連携の体制づくり**
 - ・空間整備の段階から、公共交通事業者等と連携した体制づくりを行うことで、連続性のある施設整備を行うとともに、整備後の社会実験等へスムーズに継続していくことを目指します。

区間B
札幌筋線

人の流れを呼び込み多様な活動が広がる にぎわいロード

※イメージパースの一例です



注) 自転車利用環境改善計画に基づく自転車通行空間の位置は、現在事業中の他路線を参考にしたもので、確定したものではありません。

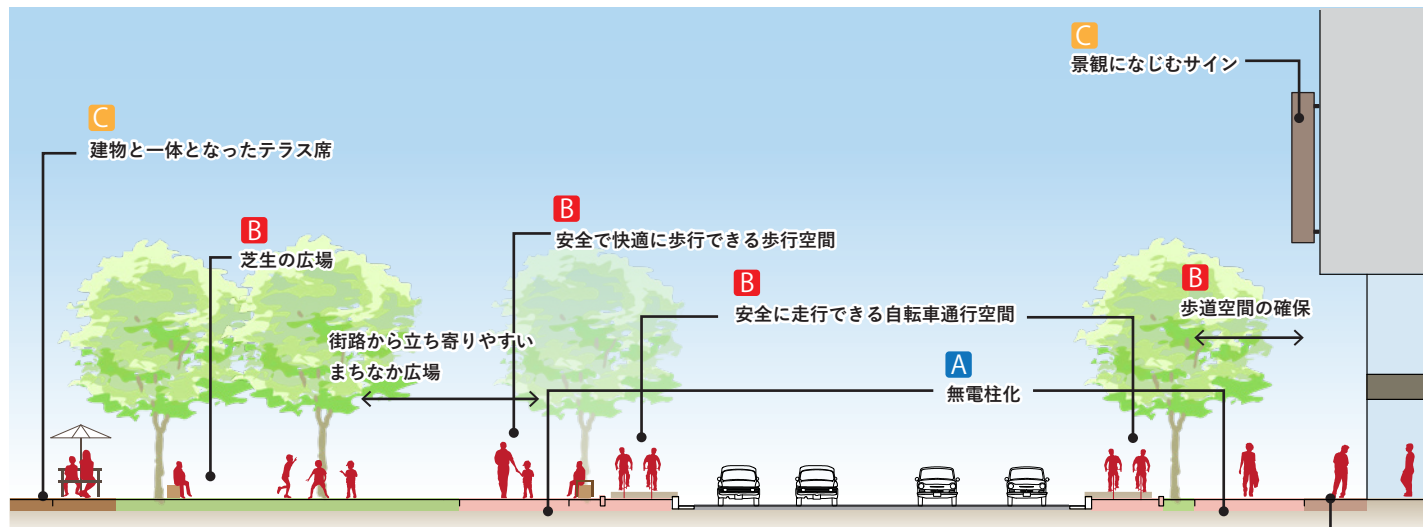
2 居心地が良く歩きたくなる空間の創出

植栽帯やベンチなどの資源を活かした滞留空間の充実や、店舗等と連携したにぎわい創出を目指します。

空間創出のポイント

- ・街路樹や歩行性の高い透水性舗装、石材を用いたベンチなど、魅力を高める施設整備により、滞留空間の充実を図ります。
- ・民間施設の整備と合わせて、街路から立ち寄りやすい広場空間を創出します。
- ・沿道の店舗など一体的なにぎわい創出に向けて、一階の透明化や建物足元の滞留空間づくりなどを促進します。

居心地が良く歩きたくなる空間創出のイメージ



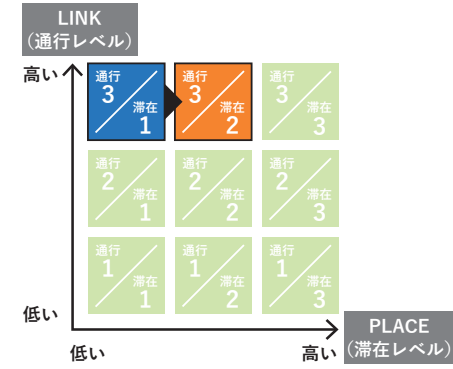
注) 自転車通行空間の位置は、現在事業中の他路線を参考にしたもので、確定したものではありません。

A 洗練された街路景観の形成 B 多様な滞留行動が生まれる空間の創出 C 街路空間と建築物のデザインの調和

1 街路及び沿道空間の構成

交通機能を維持しながら、歩道空間の環境・景観を向上させることにより、にぎわいの形成を目指します。

街路空間の再編の目標像



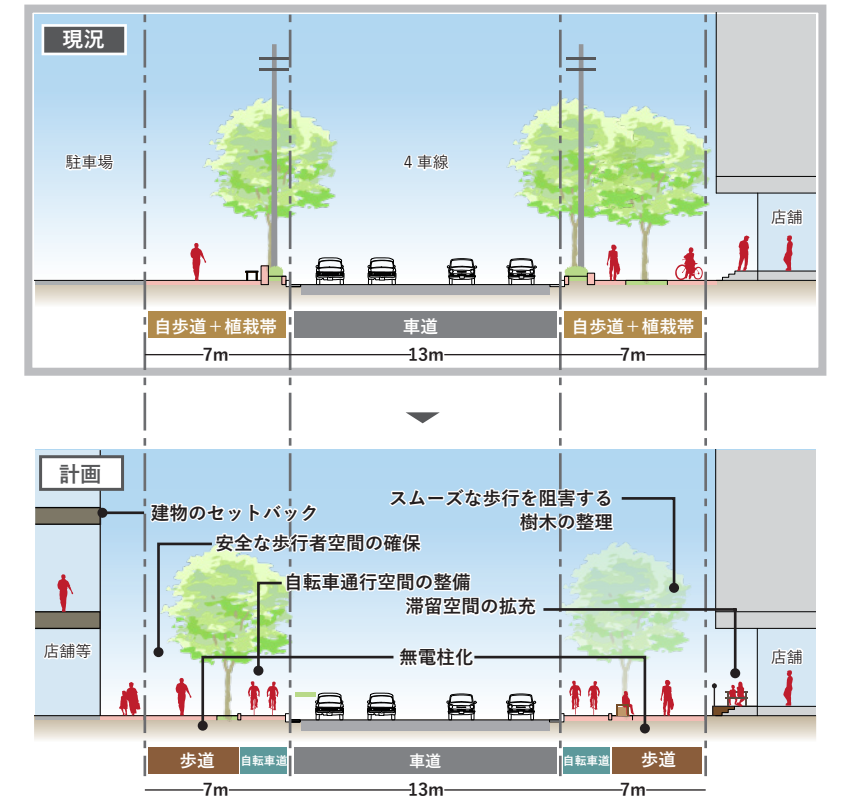
■街路の目標 (通行)

- ・幹線道路としての交通量を処理するため、車道部は現在の4車線を維持します。
- ・街路景観と防災性の向上を目的とした無電柱化に伴う自歩道空間のリニューアルに合わせて自転車通行空間を整備し、安全で快適な歩行環境の創出を目指します。

■街路の目標 (滞在)

- ・まちなか広場を中心に、街路樹の足元や建物際等に豊かな滞留空間が生まれることを目指します。
- ・新たな沿道建物の整備の際にはセットバック等により、滞留空間の拡充を目指します。

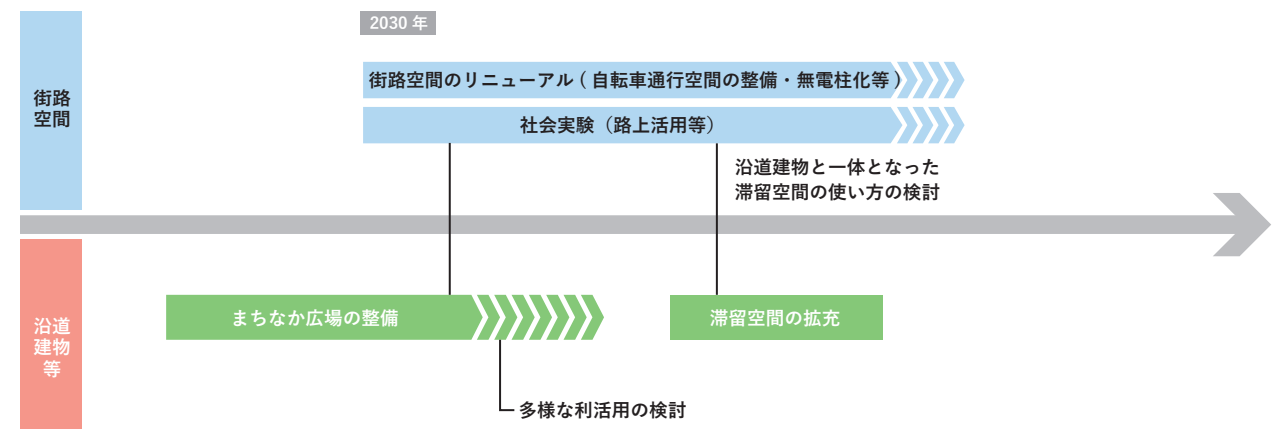
横断構成再編のイメージ



3 計画のプロセスと仕組みづくり

沿道建物の事業者と連携しながら、街路の魅力向上に向けた仕組みを検討します。

段階的な進め方のイメージ



推進のための検討

■社会実験

- ・まちなか広場の整備を契機に沿道建物の事業者などとの連携を図りながら、社会実験等によって路上空間の活用について検討します。
- ・実際の使われ方をもとに、必要に応じて街路空間の施設更新の内容を検討します。

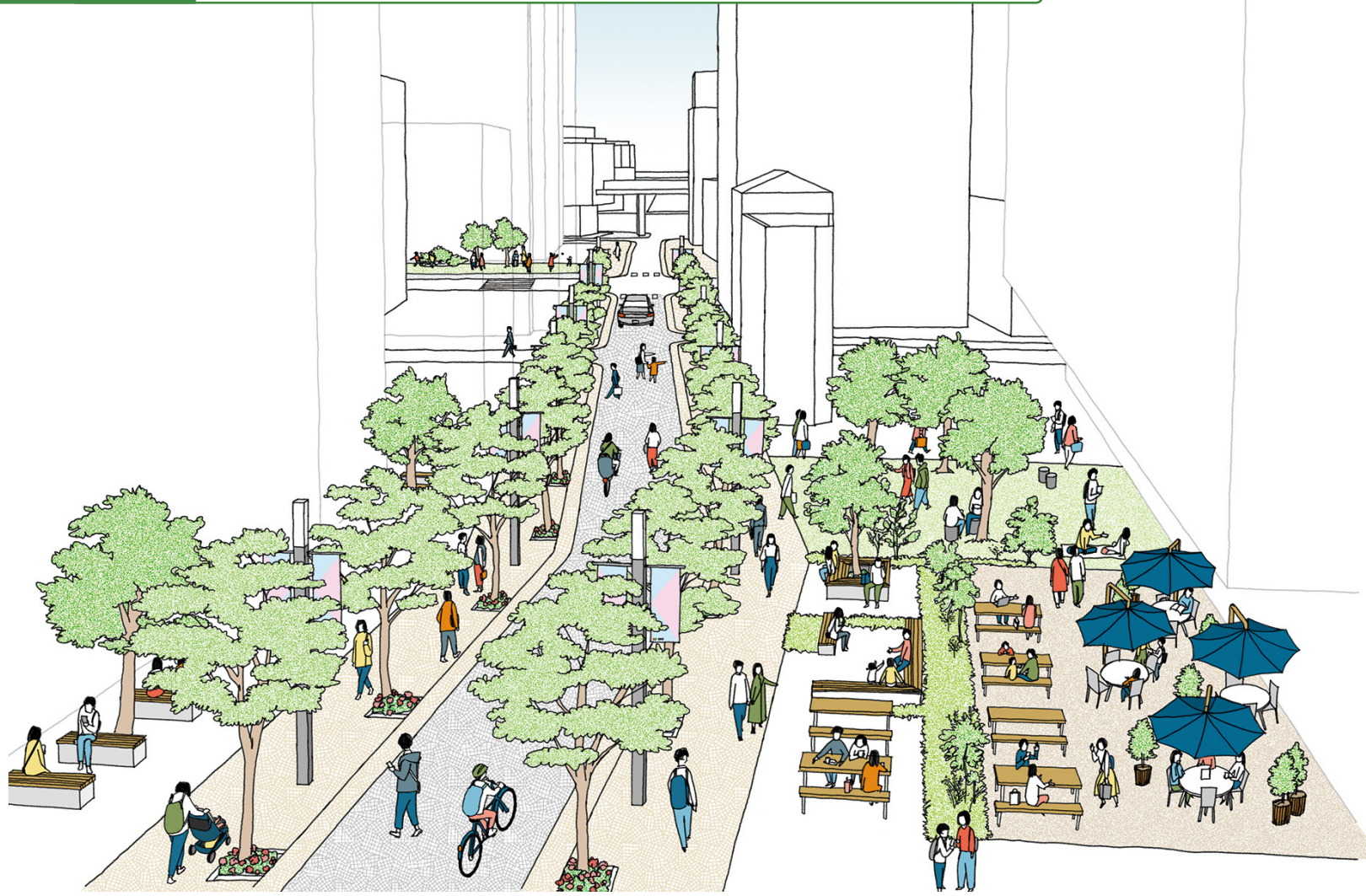
■民間建物のオープン化の推進

- ・民間建物用地については、道路と一体となったオープンスペースの確保や建物低層部のオープン化に対し、固定資産税・都市計画税の軽減措置を検討します。

■企業連携による街路の魅力化

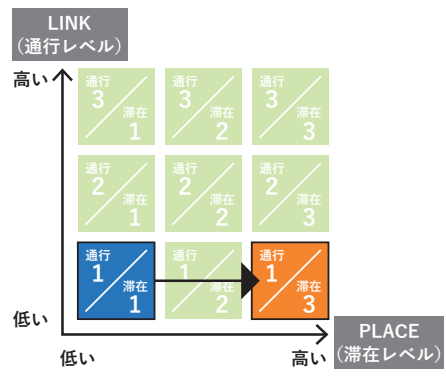
- ・街路空間の魅力を高めるため、沿道企業との情報共有や連携事業検討のためのプラットフォームを形成し、清掃・美化活動や滞留空間の充実など、公民協働による取り組みの仕組みを検討します。

※イメージパースの一例です

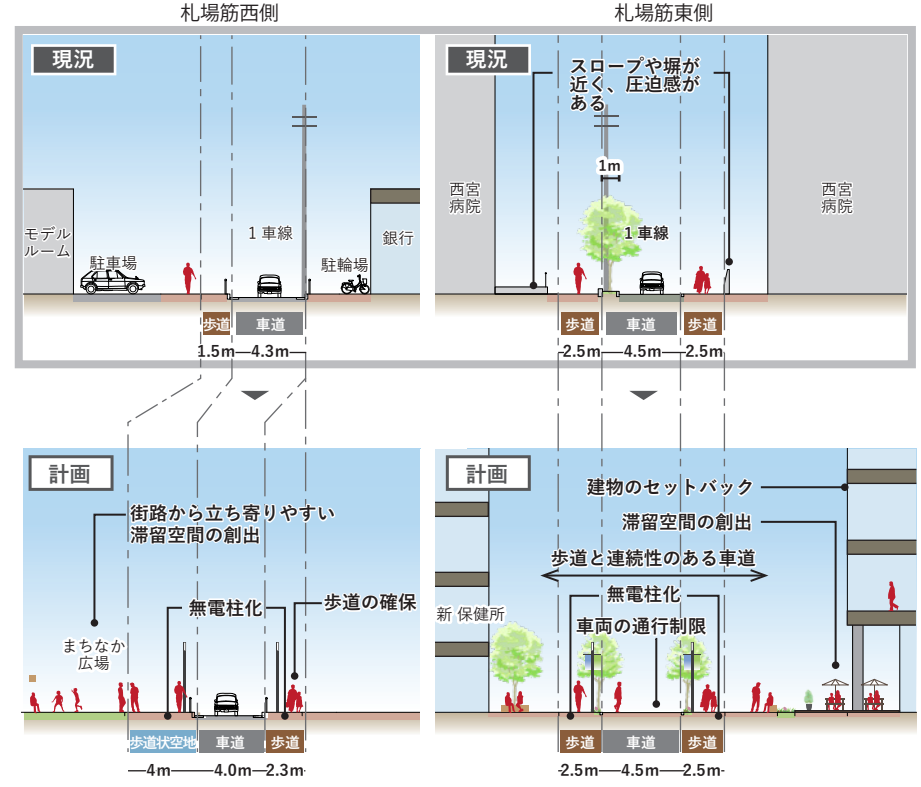


1 街路及び沿道空間の構成 | 公共施設再編に合わせたオープンスペースの確保や景観形成により、路地のような趣のある街路を目指します。

街路空間の再編の目標像



横断構成再編のイメージ



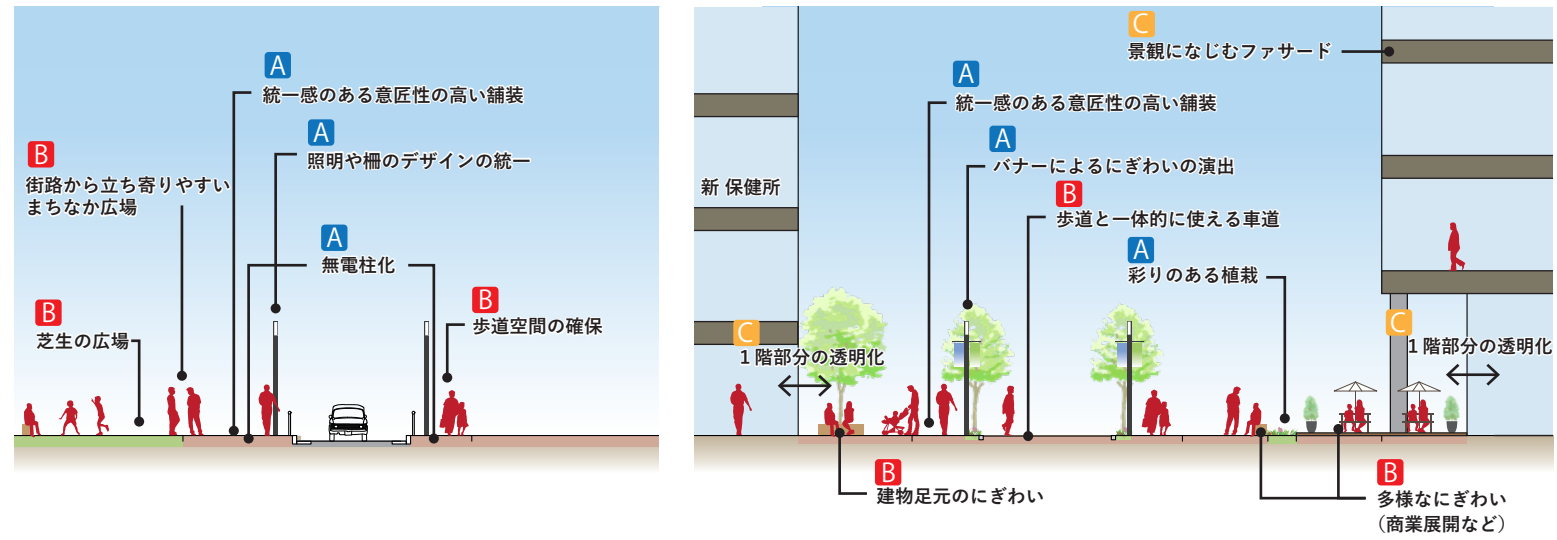
- 街路の目標(通行)
 - ・現在の一車線を維持し、歩行者を中心とした通行を継続します。
 - ・例えば時間帯による車両の通行制限などにより、歩行者中心の街路を目指します。
- 街路の目標(滞在)
 - ・公共施設の跡地活用等により、立ち寄りやすい滞留空間の創出を図ります。
 - ・札場筋東側の車道は意匠性の高いブロック舗装とするなど、歩行者中心の趣のある街路形成を目指します。

2 居心地が良く歩きたくなる空間の創出 | 沿道建物と街路空間が一体となり、おしゃれな雰囲気と居心地の良さを備えた滞留空間の創出を目指します。

空間創出のポイント

- ・街路樹や彩のある足元の植栽等により、うるおいのある緑の空間創出を図ります。
- ・バナーや照明、舗装材等の差別化により、おしゃれな街路景観の形成を目指します。
- ・公共施設の跡地活用エリアでは街路に面して居心地の良い滞留空間を確保するなど、建物と街路が一体となったにぎわいのある空間づくりを目指します。

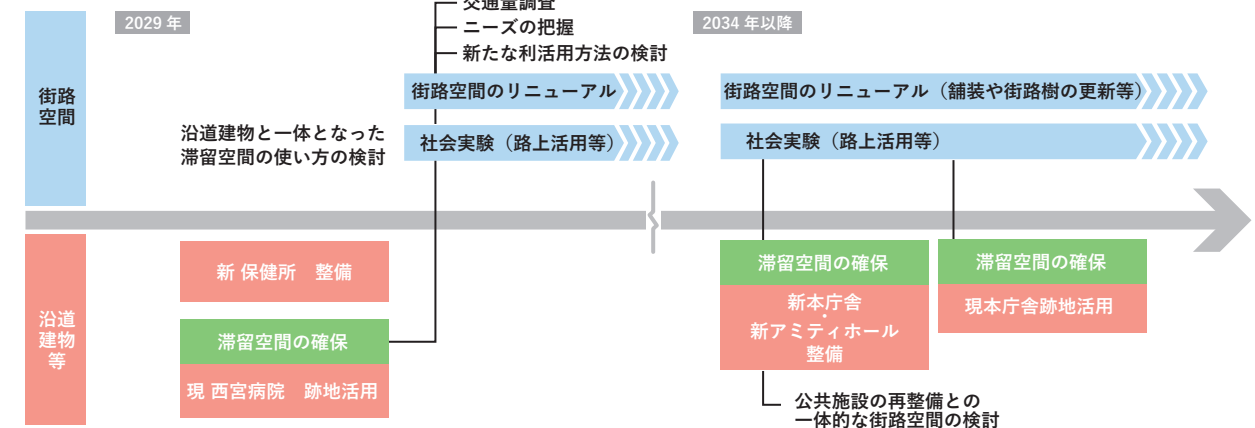
居心地が良く歩きたくなる空間創出のイメージ



A 洗練された街路景観の形成 B 多様な滞留行動が生まれる空間の創出 C 街路空間と建築物のデザインの調和

3 計画のプロセスと仕組みづくり | 沿道建物の事業者と連携しながら、継続的にぎわい創出の仕組みを検討します。

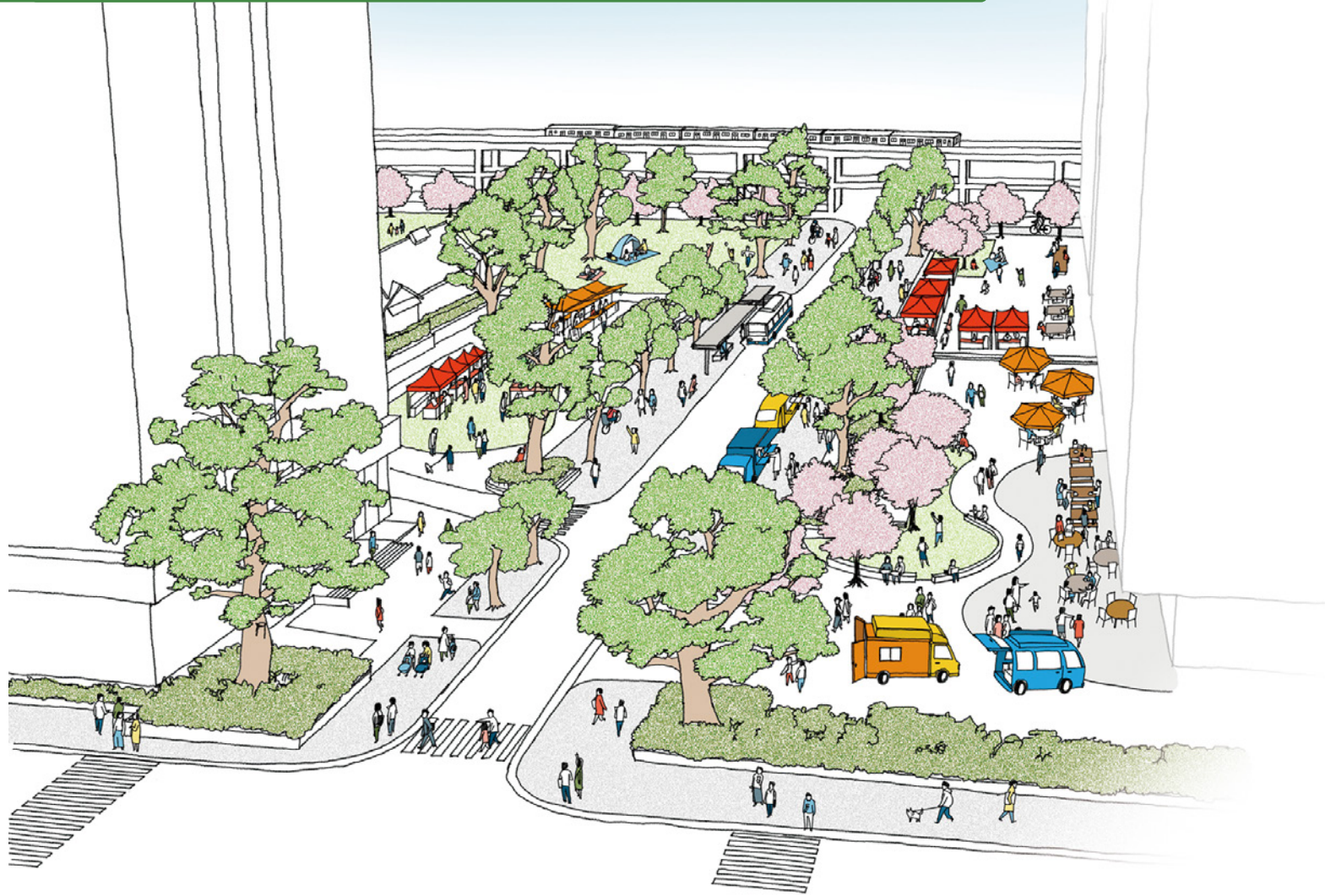
段階的な進め方のイメージ



推進のための検討

- 社会実験
 - ・時間帯による交通制御などにより、ランチストリート等のにぎわいづくりを試行するなどの社会実験を行います。
 - ・利用者のニーズや交通への影響を確認し、試行と検証を重ねながら、継続的な仕組みづくりを検討します。
- 民間建物のオープン化の推進
 - ・公共施設の跡地活用の際には、民間建物の道路と一体となったオープンスペースの確保や建物低層部のオープン化に対し、固定資産税・都市計画税の軽減措置を検討します。
- 歩行者中心の街路としての管理運営
 - ・ランチストリート等のにぎわいのある歩行者空間としての運用など、おしゃれで路地のような街路イメージを形成する特徴的なスキームを検討します。
 - ・沿道事業者との連携や、出店を含めた街路空間の管理・運営を行うNPOの発足などの組織づくりを検討します。

※イメージパースの一例です

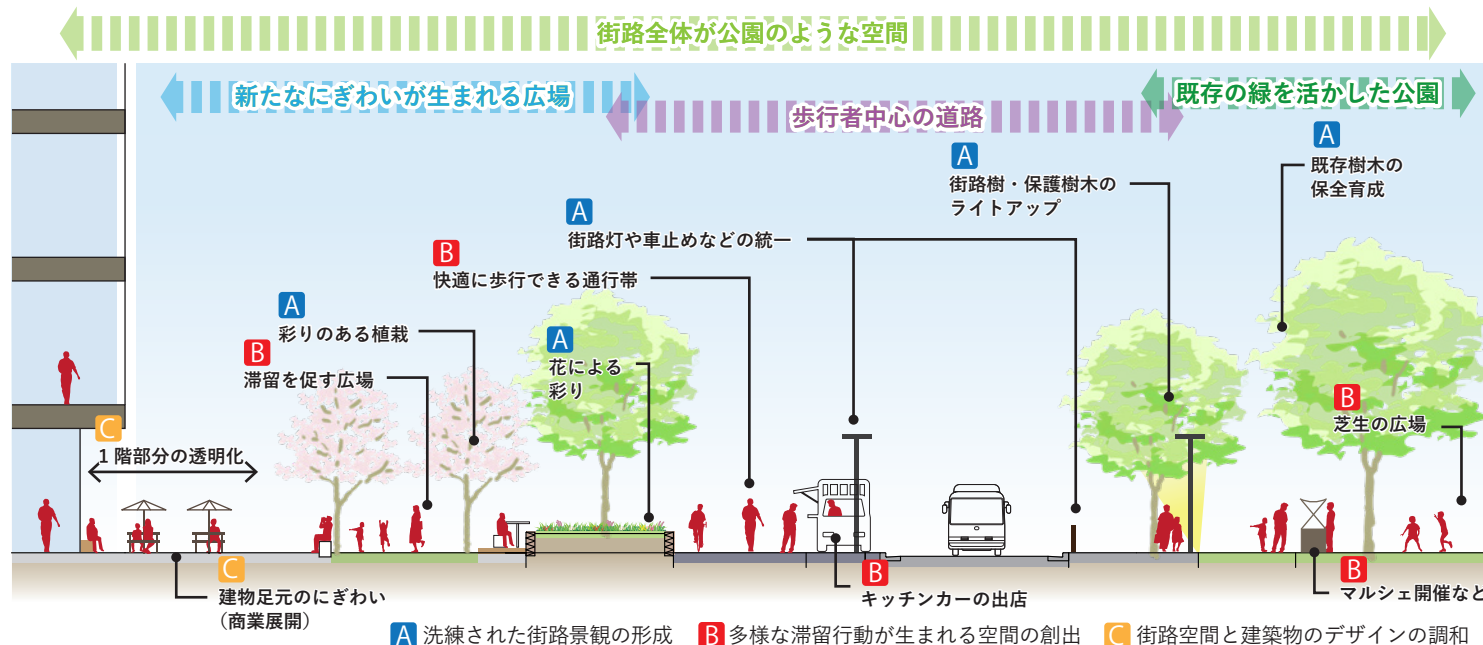


2 居心地が良く歩きたくなる空間の創出 | 公民複合施設等の整備に合わせて街路空間を再編し、安全性・回遊性の高い街路空間の創出を目指します。

空間創出のポイント

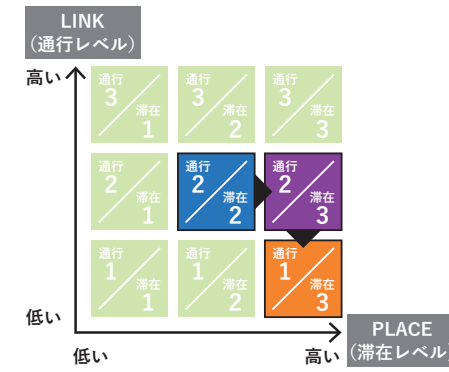
- ・豊かな既存樹木を活かし、新たに花木などの彩りを加えて魅力増加を図ります。
- ・石などの素材感のある施設を用いることで、高質な街路空間を演出します。
- ・周辺施設や公園と街路が一体となり、多様な活動やサービス展開が可能な空間創出を目指します。

居心地が良く歩きたくなる空間創出のイメージ



1 街路及び沿道空間の構成 | 段階的に街路構成の再編を行い、滞留空間の充実した歩行者中心のトランジットモール化を目指します。

街路空間の再編の目標像



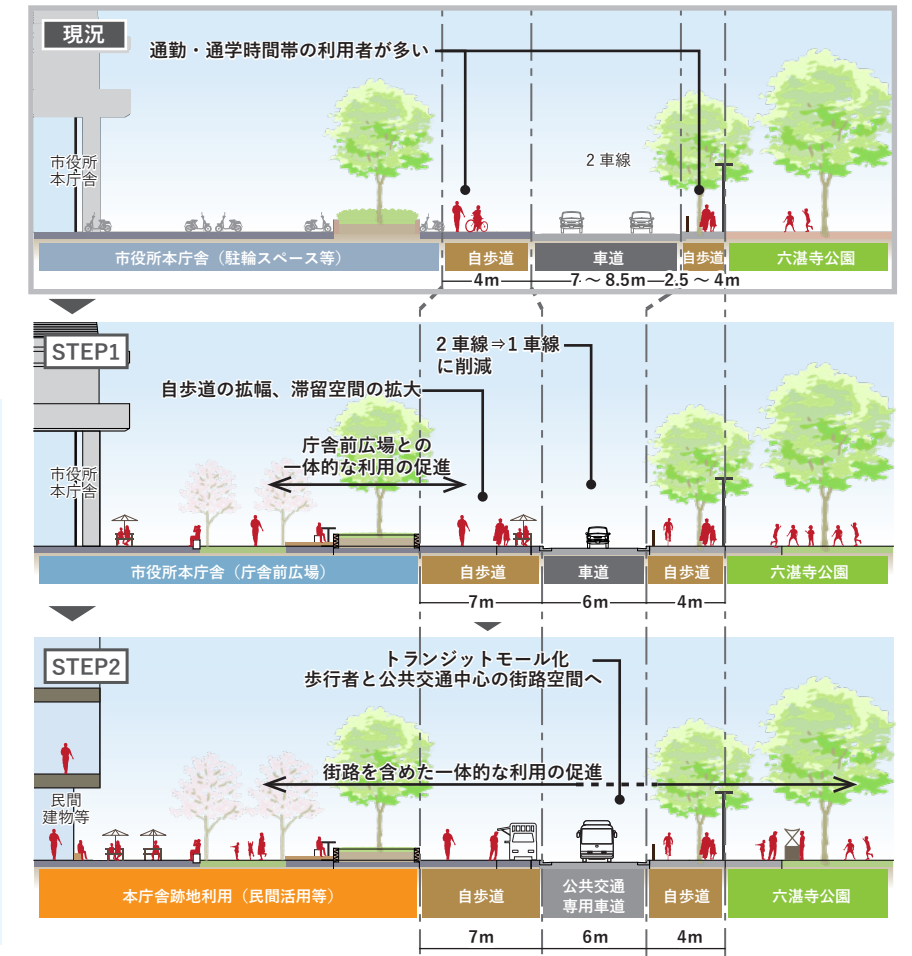
■街路の目標（通行）

- ・車道の1車線化による自歩道の拡幅などにより、通勤・通学時間帯も安全で歩きやすい歩行者空間を確保します。
- ・将来的には車両通行を公共交通に限定したトランジットモール化など、歩行者中心の空間を目指します。

■街路の目標（滞在）

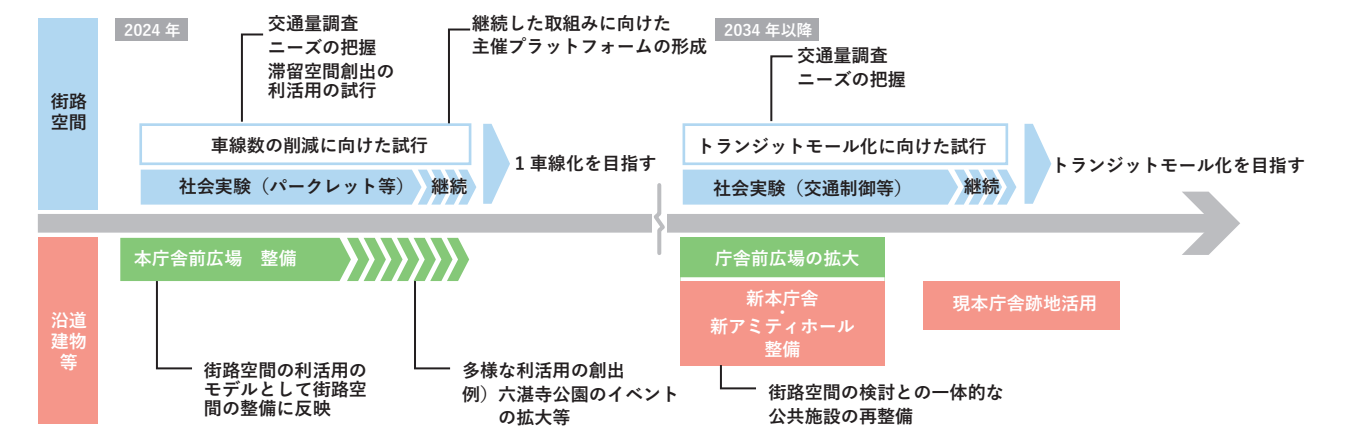
- ・街路樹や保存樹木などの景観資源を活かし、居心地のよい滞留空間を積極的に創出します。
- ・公園⇄滞留空間⇄広場（公共施設）等が一体となった滞留空間を形成することで一体的な利用の促進を図ります。

段階的な横断構成再編のイメージ



3 計画のプロセスと仕組みづくり | 街路空間の再編を段階的に進めながら、協働の仕組みづくりに取り組みます。

段階的な進め方のイメージ



推進のための検討

- 社会実験
 - ・市役所前線の車道を1車線化し、周辺地域を含む交通状況への影響などを検証します。
 - ・パークレットなど仮設の滞留空間を設け、将来的な整備規模・位置・仕様などの需要を検証します。
 - ・地域団体や周辺事業者等と連携したイベントを開催し、賑わいづくりにかかる体制やその効果を検証します。
- 民間建物のオープン化の推進
 - ・本庁舎跡地活用には、民間建物の道路と一体となったオープンスペースの確保や建物低層部のオープン化に対し、固定資産税・都市計画税の軽減措置を検討します。
- 公園・街路の管理運営の検討
 - ・公園と街路空間の一体的な管理運営のスキームを検討します。
 - ・管理団体がイベントやキッチンカーの出店管理・清掃などを担い、出店料や周辺事業者の受益の還元等により資金を確保する等の仕組みを検討します。